

# 公益信託世田谷まちづくりファンド

## 第29回助成事業 審査講評

### まちづくり活動部門

#### 【1回目応募グループ】

##### < 2-1 経堂まちあそびの会 >

- ・保護者の皆さんの地域の活動を止めないというエネルギーを強く感じました。コロナの影響で、学校行事や地域イベントが中止・縮小し、地域の交流は激減している中で、小学校の保護者が小学校に限定した活動ではなく、商店街や町会、経堂小などの協力を得て、乳幼児から中高生、大人まで、近所に住む様々な年代が楽しめて、交流のきっかけとなる場を作ることは、苦労も大きいでしょうが地域にとって意義深いと感じました。今後保護者だけでなく、商店街・町会関係者を通じて「いつもの街を遊び場に。」というコンセプトが区内の他の地域での活動の広がることを期待します。

##### < 2-2 HOME IN JAPAN >

- ・世田谷区の資料によると、世田谷区には2万人を超える外国人が生活しているそうです。2万人の外国人と日本人が同じ地域の生活者として、食べたり、動いたり、話したり、という参加しやすいリアルなイベントを通じて繋がり、それによって日々の暮らしを豊かにしつつ、いざという時、支え合いができる地域を作っていこうとしている点が素晴らしいと思います。またオンラインを通じて多くの方がこの活動に関わり、アイデアを出し合ってそれぞれが主体的に進めている点も良いと思います。多くの人に関わるので調整等色々大変なことあるとは思いますが、一方で活動の広がりという点で期待ができると思います。

### < 2-3 ダナダナ >

- ・「食」「知」「創」を切り口にした、子どもに限定しない多世代交流型のワークショップは、コロナ禍で交流が希薄になってしまった街にとって大変有意義な活動になると思います。文化や科学など、区民が関心を持ちそうなテーマの企画をラインナップしており、広報の工夫次第で多くの参加者を集められるでしょう。申請書にも書いていただいているように、本助成を受けて松原駅の新たな魅力（名物）の創出につながることを期待します。それはモノというよりも、松原駅に行けば「食」「知」「創」について考え、交流する場があるという状態なのかもしれません。

### < 2-4 M i s h u k u R . 4 2 0 >

- ・まちなかに座れる場所があるということ。それは、まちや通りを『居場所』のひとつにするということなのだと思います。  
どんな椅子が「座りやすい」のか、「また行こうと思うようになる」のか、「お隣に座った人と思わず話したくなる」のか。そして、その時プランターにはどんな植物があると素敵なのか。  
そんなことをまちにいるたくさんの人と考えてみてください。

### < 2-5 世田谷実践室 >

- ・商店街を中心とした街の空間について問題意識を持ち、改善を目指すということについては、とても意義のあることと思います。その上で、取り組みの実施場所については議論の余地があると感じました。商店街そのものではなく、商店街の裏手の住宅街にある公園で行うことに割くエネルギーが大半になっている計画ですが、公園であれどこであれ、空き地的な場所に什器を設置してイベント的に何かをすることが本取り組みの本質・価値ではないのだろうと思います。審査委員のなか助成対象として相応しくないと評価した委員もありましたが、それがなぜなのか思いをめぐらせてみていただければと思うと共に、取り組みの進展や継続に期待するところは大きいです。

### < 2-6 起業女子部イヴの木 >

- ・災害時は、通常よりも個人に踏み込み、踏み込まれることが増えます。立場が違う人のことを思いやったり、困った人を助けたりするには想像

力が必要で、その想像力のもとになるのは「知っている」ということ。皆さんが実施する企画は、その「お互いを知る機会」をつくる取り組みなのだと思います。ぜひ、防災とは違う分野の人や団体も巻き込んで、多くの人がお互いを知る機会を作ってみてください。

#### < 2-7 ひきこもり居場所カフェ >

- ・毎月イベント運営していくことは大変ですが、活動を行っていく上ではとても大事なことだと思います。その意味で昨年度、当事者、支援者、家族会の方が参加する定例会をほぼ毎月開催し、オンラインワークショップを開催した実績を高く評価させていただきます。またプラットフォームせたがやとも連携して活動を行っている点も大事なポイントだと考えました。本年度は、昨年度新型コロナ禍のため実施できなかった居場所カフェ・バーの開催にチャレンジされますが、感染対策を十分に行い無事開催されることを期待しています。